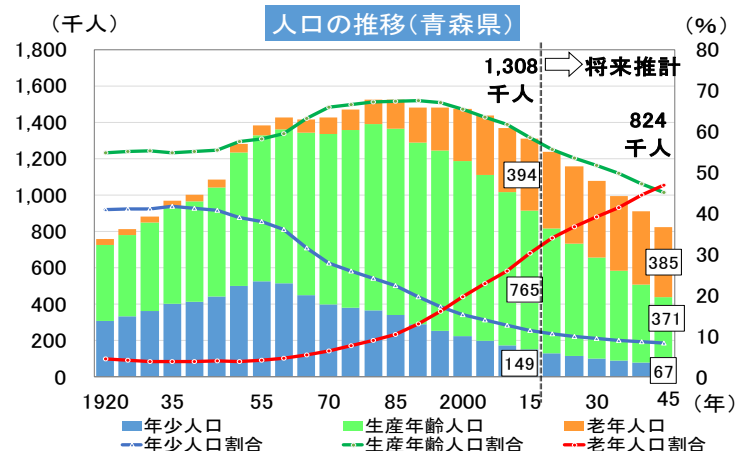


まち・ひと・しごと創生青森県長期人口ビジョン(2020年改定版(案))の概要

2015(平成27)年8月に策定した標記ビジョンについて、近年の人口動態等を踏まえて時点修正を行うとともに、総人口の将来展望の見直しを行った。

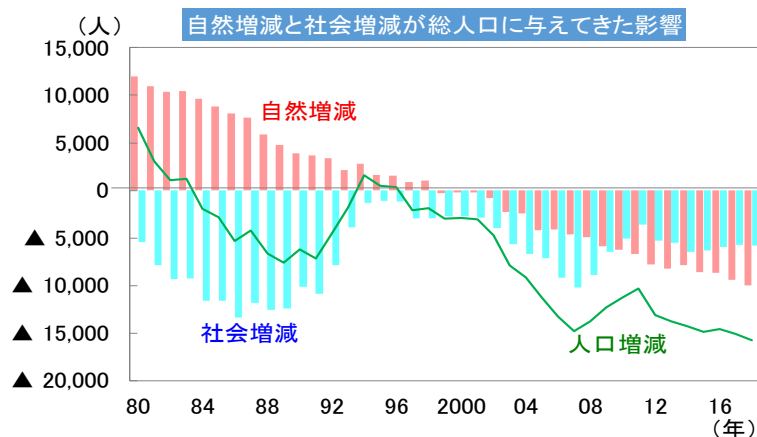
1 総人口の推移

- 本県の人口は、1983年の約153万人をピークに減少しており、2015年国勢調査では130万8千人となっている。(2020年1月時点では約124万3千人)
- 社人研の推計では、2045年の本県人口は約82万4千人となり、老年人口が生産年齢人口を上回る。



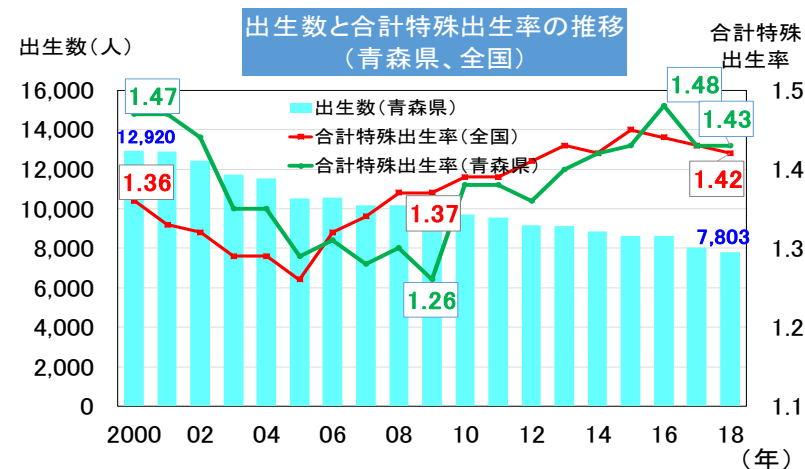
2 自然増減・社会増減

- 本県では、1984年に社会減少数が自然増加数を上回ったことで人口減少に転じた。
- 1999年以降、本県の人口減少は自然減と社会減の両面で進んでいる。また、2010年以降は、人口減少に占める自然減少の割合が高い状態が続いている。



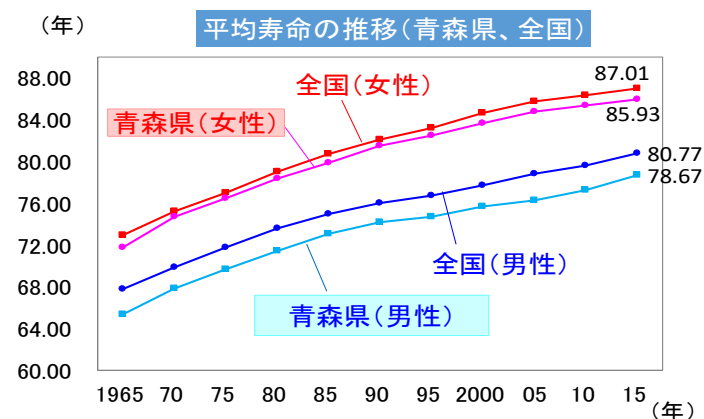
3 出生数・出生率

- 出生数が長期にわたって減少している中、本県の合計特殊出生率は、2009年の1.26を底に上昇してきている。2018年の合計特殊出生率は、前年と同水準の1.43となっている。



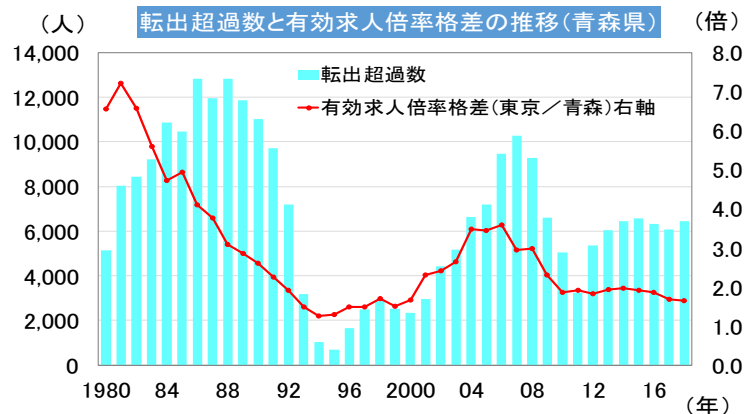
4 平均寿命

- 2015年の本県の平均寿命は、男性が78.67年、女性が85.93年となっており、1965年から見ると、男性は13.35年、女性は14.16年延びている。
- 全国との比較では、男性が2.10年、女性が1.08年下回っているものの、男性の平均寿命は全国との差が縮まってきている。



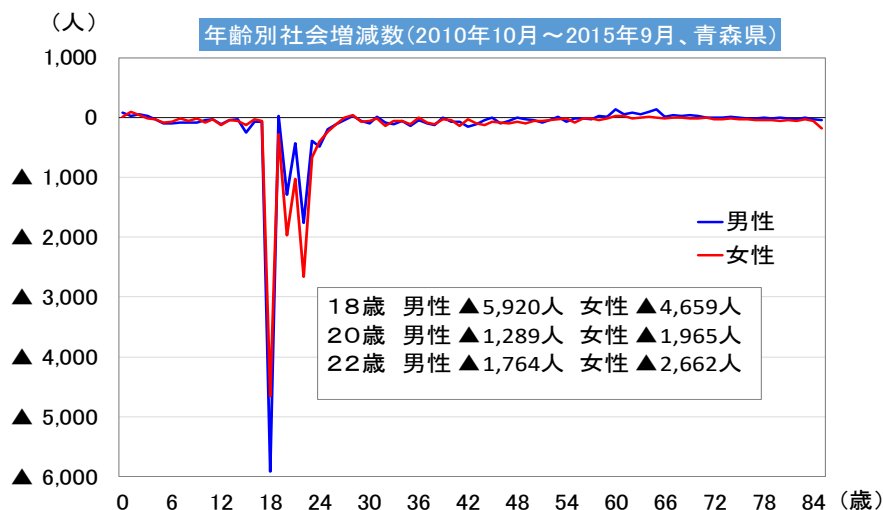
5 転出超過(社会減)の推移

- 本県から県外に転出した人口の推移を見ると、長期にわたり県外への転出者数が転入者数を上回る転出超過の状況が続いている。
- 本県と東京都の有効求人倍率の格差の拡大に伴って、転出超過数が増加しており、就業の機会を求めて人口が移動する傾向にあると考えられる。



6 年齢別社会増減

- 本県の年齢別の社会増減の状況を見ると、18歳、20歳、22歳で大幅な社会減となっており、高等学校や大学などを卒業後の進学・就職に伴う転出の影響が考えられる。



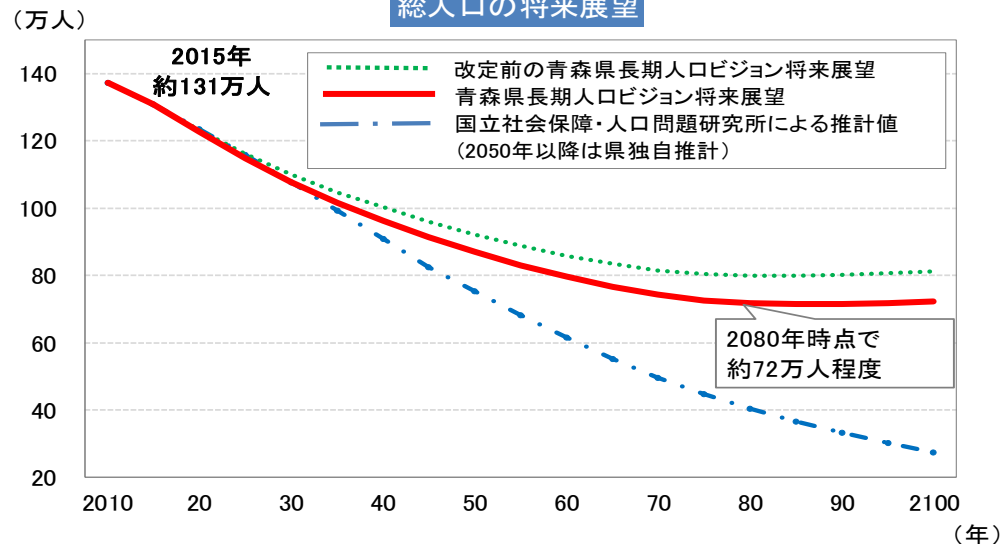
7 総人口の将来展望

- 人口減少を克服するために本県がめざすべき対策を進めることにより、次の仮定を実現した場合、本県の総人口は2080年以降、約72万人程度で安定する。(改定前は約80万人)

【仮定】

- ① 合計特殊出生率は、国の長期ビジョンと同様、2030年に1.8、2040年に2.07まで上昇する。
- ② 平均寿命は2040年に全国平均並みとなる。
- ③ 社会増減は2020年以降に社会減が縮小し始め、2045年に移動均衡に達する。

総人口の将来展望



- 下振れの要因

- ① 自然減
合計特殊出生率の想定値が、改定前よりも低下しているため。
- ② 社会減
(ア) 社会増減の移動均衡時期を2040年から2045年に変更したため。
(イ) 直近5年の転出超過率(2015～2019年)が、改定前の推計で使用している数値(2010～2014年)よりも上昇したため。